

緑の風 FAX版



JR 東労組ホームページ

NO. 72 2021年11月25日 JR東労組

社友会に

聞いてみよう パート2

2021年度年末手当交渉での会社回答

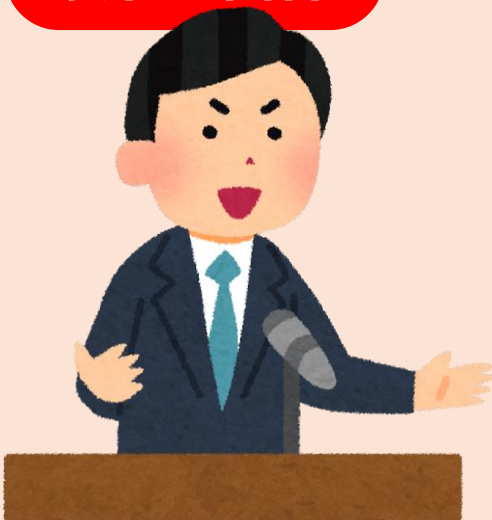
2021年11月15日、申15号「組合員の現実と声を第一とし、組合員と家族の生活を守るための『2021年度年末手当等に関する』緊急再申し入れ」第2回交渉

組合の主張

苦しい生活実態を訴えた組合員に対して、現場長は「そう言われてもボーナスを決めるのは私ではない。私に言われても困る。ボーナスが下がらないように下期黒字に向けて頑張ろう」と言われた。言われた本人は、会社はあまりにも無責任ではないか。声を聞くと言っておきながら、聞かずに嘘だと感じた。社員の苦しい実態を掴み、検討する会社の姿勢なのか。そもそも前に向かうという都合の良い声しか聞かず、悲痛な声を上げている現実を無視し続けている姿勢ではないのか。会社として声を掴んできたというが、どのように掴んだのか。



会社の回答



今述べられた生活が苦しいという生活実感は、1つあるのは会社として認識している。会社幹部が各現業機関で意見交換をしている中で、このような状況でも2ヶ月を出してくれた。この先、必要な施策に頑張っ取組むという前向きに受け止めている認識がある。前向きということで、これからこの先、年間では赤字業績予想、通期の業績予想は下方修正したが、下期の黒字化を会社としてしっかり取組むことは、社員一丸となって進める。

問題

もし、経営幹部に忖度した声が届いているなら大変な問題だ！

社友会会員に本音を聞いてみよう!!

